



# センター通信

〒123-0873 東京都足立区扇 1-12-20  
TEL (03)3856-2728 FAX (03)5939-7880  
URL www.wfc.or.jp

## 防災・防犯対策への取り組み

皆様は防災・防犯対策をどうしていらっしゃいますか。立地条件等により、方法は様々ですが、当法人でも各種の防災・防犯対策を行っています。子ども達だけでなく職員の安心・安全を確保するためにも大事な業務の一つです。各施設の取り組みについては次頁にし、法人の基本的な考えをお知らせ致します。

水道水が飲め、時刻表通りに公共交通機関が利用できる、財布片手に買い物に出かけるのが当たり前の日本ですが、世界を見回したら日本ほど安心・安全な国は無いと言われています。しかし、安心・安全が当たり前のように思われる日本に於いても防犯対策は必要事項と考えています。不審者の対応に重きを置き、防犯カメラの設置や施錠の確認、防犯グッズも揃えています。所轄の警察にもお願いをして、施設付近の見回りも積極的にして頂いています。子ども達には、無防備な言動を取らないように注意を促し、特に夜間の帰宅時には気をつけるように徹底しています。

地震・台風が日常的に起きるので、防災についても

常に考える必要があります。東日本大震災が起きてからは1週間分の食料・飲料水等を始めとした防災グッズを常備し、毎年、内容の点検をしています。地球温暖化の影響か、スコールのような雨が降ることも増えてきています。足立区の施設は防災マップによれば、荒川が氾濫すると浸水被害が発生する地域内ですので、その為の準備にも怠りはありません。過日の台風では荒川流域に避難勧告が出たため、平屋のおうぎ寮では、寮生・職員が共に暁星学園の2階に避難をして一夜を過ごしました。幸いに被害は無く、翌朝無事に帰寮しましたが、マニュアルができていたので、速やかに行動できたと思っています。

安心・安全を当たり前と考えず、皆の努力でできていることを意識していくことが必要であり、それが、防災・防犯の基本と考えます。小さな事でも良いので率先して行うことを大事にし、大事な生命をお預かりしている法人として準備を怠りなくして、防災・防犯に努めて参ります。

理事長 荒船旦子

## 合同防災訓練

9月30日、法人では合同防災訓練が行われました。訓練には扇地区の暁星学園、長谷場新宿寮、おうぎ寮、法人事務所が参加しました。今回の避難訓練は、大型地震が発生し、暁星学園の食堂から出火。おうぎ寮では、負傷者が発生して担架による救出が必要との想定で行われました。児童、職員全員の避難が完了し、負傷者を救出するまで11分かかりました。

講評では、今回は地震による出火が想定されていたため、「煙が施設の上の階まで到達するのは思いのほか早いこと」、「上の階に行き、児童を連れて施設の外に出るのは時間がかかることを考え、素早く行動すること」などが確認されました。



避難訓練後は西新井消防署の協力のもと、消防士3名の方に、担架や消火器の扱い方の講習を行っていただきました。今回、避難訓練でも担架を使用しましたが、負傷者の足側を進行方向にすると負傷者が進行方向を見ることができて安心するなど、担架を安全に扱うための知識も教わりました。消火器の講習では、実際に児童・職員が代わる代わる4本の消火器で放射の訓練を行いました。地面に置いて放射すると、放射の勢いに負けづらいなど、安全かつ効果的に消火器を使う方法を、身に着けました。今後も定期的に合同防災訓練を実施し、有事の際は適切な行動ができるよう学んで参ります。

避難訓練後は西新井消防署の協力のもと、消防士3名の方に、担架や消火器の扱い方の講習を行っていただきました。今回、避難訓練



でも担架を使用しましたが、負傷者の足側を進行方向にすると負傷者が進行方向を見ることができて安心するなど、担架を安全に扱うための知識も教わりました。消火器の講習では、実際に児童・職員が代わる代わる4本の消火器で放射の訓練を行いました。地面に置いて放射すると、放射の勢いに負けづらいなど、安全かつ効果的に消火器を使う方法を、身に着けました。今後も定期的に合同防災訓練を実施し、有事の際は適切な行動ができるよう学んで参ります。

# 法人内防災・防犯アンケート Q & A

10月に行った法人内防災・防犯アンケートの結果から、各施設の取り組みをご紹介します。

Q. どのような防犯用品を備えていますか？

A. ・防犯カメラ (全施設)

- ・さすまた (暁星学園、清周寮)、警棒 (清周寮)、催涙スプレー (清周寮)、カラーボール (暁星学園)
- ・防犯ネット (あけの星学園)、防犯人感センサー (あけの星学園)



Q. 防犯対策として施設ではどのようなことを行っていますか？

A. 「施設の外周に防犯カメラを設置し、不審者対策を行っています」(暁星学園)。「玄関インターホンの活用、戸締り・施錠確認、学園内外の見回り、児童への声かけを行っています」(あけの星学園)。「個人情報の取り扱い、外出時の行動、門限、携帯電話の取り扱いなど児童に伝えています」(長谷場新宿寮)。「夜の施錠、戸締り、外門の管理、巡回等を行っています」(清周寮)。「防犯カメラを設置し、玄関を常に施錠しています」(おうぎ寮)。

Q. 独自の防犯対策ルール・取り組みがあれば教えてください。

A. 「さすまた、カラーボールを準備しています」(暁星学園)。「最寄り警察署や町会防犯部との情報共有をしています。また、町会の防犯パトロールに児童と職員で参加しています」(あけの星学園)。「世間で事件・事故が起こった時には、寮生ミーティングで取り上げ、考える場を持ちます」(長谷場新宿寮)。「地域の防犯パトロールに参加し、地域との連携を強めています」(清周寮)。「就寝時には児童に窓のカギは必ず施錠し、エアコンを使用するように教えています」(おうぎ寮)。



Q. 防犯について児童に何をどう伝えていますか？

A. 「携帯電話を所持している児童には帰園時間に遅れる場合、必ず連絡を入れるよう伝えています」(暁星学園)。「SNS、インターネット、携帯電話の利用上の注意について警察官に来ていただき、園内講習会を開催しました」(あけの星学園)。「自立後に、どのように自分を守っていくのかという視点で施錠等の大切さを伝えています」(長谷場新宿寮)。「不審者情報があれば、児童・職員へ周知し、全員で共有するようにします。防犯用品の使用方法を確認する際は、児童と一緒により実践しながら確認しています」(清周寮)。「おうぎ寮は平屋なので外部から侵入しやすいため、外出時は必ず窓を施錠するように伝えています」(おうぎ寮)。

Q. 地震・水害等の災害に備えて、どのような備蓄品を施設に備えていますか？

- A. ・食料 (アルファ米、カンパン、クッキー等)、飲料水 (保存水)、飲用水ポリタンク、ヘルメット、毛布、救急箱
- ・防災リュック (レジャーシート、ロープ、ビニール紐、手袋、タオル、懐中電灯、電池、ガスボンベ、ろうそく、缶切り、食器セット、ガーゼ、ピンセット、絆創膏、包帯、三角巾、水、カンパン、コンロ、ラジオ、ライター、マッチ、衛生用品、レインコート、携帯トイレ等)
  - ・発電機、電動排水ポンプ、スコップ、のこぎり、バール、チューブレスタイヤリヤカー
  - ・キャンプ用品 (寝袋、テント、パラソル、シート、タープ、折りたたみチェア、クーラーボックス等)
  - ・救命胴衣、救命浮き輪、AED、防災用メガフォン、担架、脚立、ソーラー充電器



アンケートに回答することで、日頃の取り組みを振り返るきっかけになったとの声も来ております。今後も安心・安全のための取り組みを継続して参ります。

# 近 況 報 告

## 児童養護施設 暁星学園のようす (定員 男女 30名)

マナフロア(2階女子フロア)には、転校して別の学校で頑張る子、高卒認定試験や大学進学に向けて頑張っている子、退所に向けて準備を進めている子がいます。いろいろな課題を克服しつつ充実した生活を送っています。

3・4階男子フロアは合同で、夏にハンズオン東京の方々と宮城県の農家へボランティアに行ってきました。ボランティア活動では雑草抜きを手伝い、初めは足取りの重い様子も見られましたが、農家の方の説明を聞いて熱心に取り組んでくれました。2日目は松島の観光や、こけしの絵付け体験をしました。個性豊かなこけしが出来上がり、行事を楽しみました。

ほきまホームでは、夏休みに3泊4日の長崎旅行、日帰りで海水浴、清周寮と合同で流しそうめんや花火、スイカ割りをして夏を満喫しました。9月には竹ノ塚地区際が行われ、多くの退園生が遊びに来てくれて、頑張っている様子など近況を聞くことができました。



## 児童養護施設 あけの星学園のようす (定員 男女 20名)

自立を控え就職を希望している高校3年生にとって、9月は就職試験の月です。あけの星学園では、高校3年生年齢の児童が6名在籍しております。そのうち2名の児童は、就職を希望しており、9月に就職試験を受験しました。

A君は将来声優になる夢がありますが、高校卒業後は就職し、夜間声優の学校に通うことを考えております。A君は9月に印刷会社の就職試験を受け、無事合格しました。

Fさんは2年生の途中で高校を転学し、チャレンジスクールに転入しました。高校卒業後は就職し、自立援助ホームに入所することを考えています。Fさんは9

月に製パン会社の就職試験を受け、無事合格しました。高校を卒業後に施設を退所し、新しい環境で生活しながら就職することは、児童にとって様々な不安やトラブルが付きまといまいます。その不安やトラブルに、施設としてアフターケアで関わり支援していくことも私たちの役割であると考えています。



## 自立援助ホーム 長谷場新宿寮のようす (定員 男子 15名)

夏の暑さが過ぎ去り、秋の香りが漂う中、長谷場新宿寮の寮生は日々遅く成長しております。フルタイムで就労して自立を目指し、中には就労と学業を両立させる寮生もあり、毎日頑張っている姿は長谷場新宿寮の誇りでもあります。

寮生たちが楽しみを共有し、明日への活力を養えるよう、今年も沢山の行事を実施しました。「独立行政法人子どもゆめ基金」様のご助力で、今は数少ない寝台特急で岡山県へ旅行しました。夏の醍醐味である海水浴はもちろん、普段は経験できないシーカヤック体験をして楽しみました。また、食文化を学びに新横浜のラーメン博物館にも足を延ばし、食べ盛りの男子が大好きなラーメンを食べながら、学ぶことが出来ました。

自己啓発の一環として、今年度も講師を招いて権利研修や性教育研修を実施しています。意見を出し合う寮生たちの姿が印象的でした。

スポーツの秋! 食欲の秋!そして仕事の秋!年末に向けて、長谷場新宿寮一同邁進致します!



## 自立援助ホーム 清周寮のようす (定員 女子15名)

清周寮では、現在新しいことに挑戦している児童が多数います。資格を取るために高卒認定試験を受ける児童、自分に合う仕事を探すため就労体験を実施している児童、自分の可能性を広げるため職種を大きく変えて転職している児童と、皆自分の将来について真剣に考え、行動しております。その姿を見て「就労体験ってどういうことをするの?」「高卒認定試験ってどうやって取るの?」と、他の児童達も刺激を受けているようです。児童達がお互いに成長していく姿を見て、私達職員も応援したい一心で支援しております。

卒寮生達も、皆それぞれ自分自身と向き合っております。9月28日に竹ノ塚地区祭を実施し、約45名の卒寮生が清周寮を訪れてくれました。懐かしい顔ぶれに、職員も卒寮生も思い出話に花を咲かせます。懐かしい話ばかりではなく、現在どのように生活しているかなど皆話したいことは山ほどあるようで、笑い声が常に絶えない場となっております。



## 自立援助ホーム おうぎ寮のようす (定員 男女6名)

おうぎ寮では、今年から2名の新しい職員が勤務しています。入職から既に数カ月が経ちましたが、利用者として笑い、利用者として向き合う中で、多くの事を学びながら日々奮闘し、悩んでいるその姿に、私たちも自身の入職当時に思い出し、それぞれに新鮮な刺激を受けています。おうぎ寮は自立援助ホームとして、様々な事情により家庭からの支援が望めない17～19歳の男女6名が現在生活しており、それぞれ自立を目指して日々アルバイト、学校と頑張っています。最終的な自立の目標とするところは利用者ごとに異なりますが、経済的な

ことは勿論、精神的な意味での自立も目指しています。自立に必要なスキルは多岐にわたるため、支援を行う職員にも、慣れないことや負担となることも多く、大変だとは思いますが、そんな中、新たな想いを胸に私たちと一緒に頑張ってくれている二人に感謝しつつ、これからも職員一丸となって利用者を応援していきたいと思ひます。



## 山中湖林間寮のようす

8月1日は、山中湖の花火大会です。毎年、富士五湖では8月1日より5日まで、山中湖から始まり河口湖まで順番に花火大会が行われます。花火大会のメイン会場は山中湖の高速道路寄りですが、他の場所からも上がります。林間寮は湖の中心近くにあるので、湖畔まで花火を見に行くと3方向から上がる花火をゆっくりと眺めることができます。その上、観客は少ないので、芝生に座ってのんびりと楽しめます。毎年、数家族で見えるグループもあり、子ども達は花火に興じた後は、ログハウスに戻って眠り、そこからは大人の楽しむ時間となっているようです。

朝早く目覚めて、タイヤのブランコやハンモックで、子ども達だけで遊んでいても、親は安心してます。車の通行を心配することなく安心して、のんびりと過ごせる大事な空間です。

センターでは今年も職員の宿泊研修に利用したり、子ども達が泊まりがけで遊びに利用しています。新宿駅から高速バスで2時間ぐらいですので気楽に行かれます。皆様も、ご家族連れでお出まください。都会から離れて自然を満喫されることと思ひます。



## 武藤素明氏の研修を終えて

7月12日に法人内人材育成委員会主催の法人内全体研修が開催された。武藤素明氏(社会福祉法人二葉保育園 二葉学園・二葉むさしが丘学園・トリノス統括施設長)を迎え「高齢児童に対する自立支援の歩みと今後の課題」について講義をして頂いた。

自立支援と近年の社会的養護に関する制度改正から始まり、今後の児童養護施設等の在り方と求められる課題、職員に求められる事、自立援助ホームの実践と課題等、自立支援に対してどの様に職員が臨むべきか熱く語って頂いた。また武藤先生の経歴の話の中で指導員の頃、長谷場先生が二葉学園へ赴き、職員に対してではなく利用者に対して、研修と称した自立についての話をされた事を聞いた。長谷場先生と武藤先生の接点と、残された足跡が深いものであると感じた。

新任職員から事業所長に至るまで全員で35名の職員が参加し貴重なお話を聞く事が出来た。新任職員からは、「支援の中で長期的なアフタケアが求められていること、また施設職員として自身の働き方も長期的に捉える必要性を強く感じた」との感想が述べられていた。ベテラン職員からは、「人材確保・育成定着につい



て今後入職してくる人材の人間性や社会性について考え、その人達にあった人材育成の方法を提案する必要を感じ取れた」とのコメントももらっている。職員それぞれが、日々のルーティンの中での悩みや疑問に対して、解決の糸口を見つけたとの感想が多く寄せられていた。

2時間と言う短い時間の中で、自立支援から職員の人材確保・育成まで幅広くお話をして頂いた。その中で法人職員として利用者の支援と職員の確保・育成・定着に、どの様に取り組んでいくかなど、今後の青少年福祉センターの発展のヒントが多く得られた時間でもあった。

法人人材育成委員会副委員長 黒川 円

## 山中湖林間寮での宿泊研修

10月1日～2日、山中湖林間寮にて、人材育成委員会主催で法人内宿泊研修を実施しました。今年度の参加者は26名でした。研修では、法人の歴史を振り返り、法人に対する理解を深めるとともに、法人内の職員が事業所の垣根を越えて交流し、法人の発展と職員の成長を図ることを目的としています。

第1日目は、昭和の時代に法人の事業や取り組みを特集しテレビ放映された「君はひとりぼっちか」というドキュメンタリー番組を視聴しました。また、1989年に法人が出版した「強いられた自立」を題材とし、法人が行ってきた事業を振り返り、5～6名のグループでディスカッ



ションを行いました。研修終了後、参加者全員で役割を決めて食事の準備を行い、バーベキュー料理を楽しみました。職員が共に食事をし、語らいあう姿は、大変微笑ましい光景でした。アンケートでは、このバーベキューが特に好評でした。第2日目は、皆で朝食を食べた後、石丸園長と松本寮長の法人に入職してから現在に至るまでの歴史を、懐かしい写真と楽しいコメントを交えながら、両施設長が紹介しました。お二人の話の中には、児童指導員時代の苦労話がいくつか紹介されましたが、苦労を共にした仲間が存在がとても重要であり、「この仕事は決して一人ではできない」というコメントが印象的でした。

法人内宿泊研修は、年1回実施されています(職員は3年に1回参加)。今回の研修では、1日目に法人の取り組んできた事業に焦点を当て、その歴史について振り返り、2日目は職員(人)に焦点を当て、時代背景や子どもの様子について振り返りました。この機会に法人の過去と未来について考え、研修を終え各事業所に戻ってから、研修の成果を各自が発揮することを期待しています。

法人人材育成委員会副委員長 野館一郎

## 新任職員研修のご報告

法人では、6月と9月に新任職員研修（法人内人材育成委員会主催）が行われました。4月の入社式後に行われた研修以来の新任職員向け研修となります。

6月6日の研修では、「貿易ゲーム」が行われました。法人研修のスローガンでもある「夢・目標・チームワーク」のうち、特にチームワークに焦点を当てた参加型のワークショップです。それぞれのグループは、紙を「資源」として、ハサミ、コンパス、定規などの「道具」を使い、「製品」（円、四角、三角などの紙の切り抜き）を作り、それを「世界銀行」に売却して制限時間内の売り上げを競うゲームです。いろいろな作戦が考えられる中でチームの作戦を統一する難しさ、グループで役

割を分担して協力することの大きさを、ワークショップを通して学びました。

9月2日の研修では、入職から4カ月経過した職員達が、「入職してから取り組んできたこと」をテーマにレポートを作成し、発表しました。その後のグループワークでは、日々の業務の中で悩んでいること、それをどう克服しているかなどが話し合われました。ひとたび児童への支援の話となると、話は熱を帯び、いくら語っても語り尽せないようでした。児童へのアプローチの方法は多岐に渡り、他事業所の特徴的な取り組みには、それぞれが真剣に耳を傾けていました。

## ♪♪♪♪♪ チャリティーコンサート ♪♪♪♪♪

今年も7月2日（火）に千代田キワニスクラブのご好意により、第2回チャリティーコンサートが東京国立近代美術館の地下ホールにて開催されました。ヴァイオリニストの對馬佳祐氏は、数々のコンクールで1位を受賞されています。ピアニストの永野光太郎氏と共に若さ溢れるお二人でした。前回同様にコンサートの前には、東京国立近代美術館前館長と演奏者によるトークショーが行われ、演奏者に対しての問いかけもお上手で曲目だけでなく演奏者への理解も深まりました。来場者の方々もいつもとは違うコンサートの始まりを楽しまれた気が致します。前日から始まった高畑勲展に合わせて、特別に「セロ弾きのゴーシュ」を曲目に入れて下さいました。シューベルト、ドビュッシー、ラヴェル等多岐に渡り、初夏の午後を心豊かに過ごすことができました。

純益は施設を退所後も上級学校に通う子ども達への生活資金となります。千代田キワニスクラブには、センターの子ども達もお世話にあずかっており、今までにも数名が無事に卒業をし、資格を持って職場で仕事に励

んでいます。学費の補助が出る上級学校等は増えてきてはいますが、生活資金までは到らず、途中で退学せざるを得なかった子どもも多くいます。少しでもその数を減らせるようにと資金を集めておりますので、今回もその一環として大事に使わせて頂きます。ご参加された皆様を始め、ご協力下さった皆様がこの場を拝借して改めて感謝申し上げます。



### 編集後記

通勤途中の道で、職場や学校に向かう入所児童と挨拶を交わすことがあります。朝の空気の中、施設内とは違った大人びた表情を見せる児童の姿に、こちらが勇気づけられています。

10月12日に開催を予定しておりましたおうぎバザーは、台風19号の接近のため、中止させていただきました。楽しみにして下さっていた皆様には大変ご迷惑をおかけいたしました。来年は、隔年に一度の大バザーが6月14日（日曜日）に開催されますので、どうぞ楽しみにお待ちください。（瀬尾）